

15) マス・スクリーニングで発見された 神経芽細胞腫症例

西平浩一

(神奈川県立こども医療センター)

神奈川県全域(横浜市, 川崎市, 横須賀市, およびその他の県域)において, 神経芽細胞腫のマス・スクリーニングが実施されている。表1に昭和57年から60年11月末までに実施した検査数, 精密検査数等を示した。本年は横浜市において患児2例が発見されたので, その2例につき報告する。

表1 神経芽細胞腫マス・スクリーニング検査数と発見数

	検査数	異常なし(%)	再検査数(%)	精検数(%)	患者数
神奈川県	61,755	60,118 (97.4)	1,729 (2.8)	21 (0.03)	0
横浜市	74,395	72,337 (97.2)	1,805 (2.4)	32 (0.04)	2
川崎市	27,619				1
累計	163,769				3

症例1 (A. S.) 女児、昭和60年1月30日生

昭和60年9月28日, 尿VMA スクリーニングで陽性, HVA も増加していた。同10月5日(8カ月時)精密検査のため神奈川県立こども医療センターに来院した。

家族歴, 既往歴に特記すべきことなく, 同胞は患児のみである。生下時体重3006gで発育も正常であった。

来院時所見: 体重7697g, 身長67.5cmで, 栄養状態は良好であった。腹部触診で右季肋下に直径約5cmの固い腫瘍が容易に触知された。さらに精査を行うため直ちに入院した。

入院時主要所見: 尿VMA 109 μ g/mgCr, HVA 188 μ g/mgCr, 血清中のneuron specific enolase (NSE) 25.9ng/ml といずれも増加しており, LDH 669 Uとやゝ高値を示した。末梢血液所見には異常はみられなかった。エコーグラムではSolid Patternを示し, CTで右腎前内側に石灰化を伴う大きな実質性腫瘍があり, 右腎を外側後方に圧排していた。以上より傍脊椎交感神経節に由来する神経芽細胞腫と考えられた。骨シンチ, 骨髄像は正常であった。

10月7日手術が行なわれ, 正中後腹膜に存在した6.7 \times 5.5 \times 5.0cm, 84.8gの腫瘍を全摘した。病期分類はStage II (OR, C₂, N₀, B₀, E₀, V₀, Bm₀, H₀, D₀)であり, 組織学的分類では神経節芽細胞腫, 低分化型であった。

治療: 手術後, 腫瘍床に20.8 Gyの照射を行ない, Endoxan 300 mg/m² と Oncovin 1.5 mg/m² を隔週交互に静注するJames療法を行なっている。治療は終了してないが, VMA,

HVA, NSE は正常化し、治癒が期待されている。

症例 2 (U. S.) 女児、60 年 3 月 29 日 生

60年10月15日、マス・スクリーニングでVMA 高値、同10月30日再検でも高値のため精査のため当センターへ来院し、12月3日入院した。

家族歴、既往歴に特記すべきことはなく、発育も正常であった。

入院時所見：腹部では睡眠時に臍左上方約3 cmの部位に母指頭大、可動性のない固い腫瘤を触知した。その他、理学的所見には異常なかった。

検査所見では尿VMA はDip 法で陰性であったが、定量は $52.9 \mu\text{g}/\text{mg Cr}$ とやゝ増加し、HVA は $25.9 \mu\text{g}/\text{mg Cr}$ と正常、血清NSEは $27.6 \text{ ng}/\text{ml}$ と増加し、フェリチンは $31 \text{ ng}/\text{ml}$ と正常であった。LDHは671 Uとやゝ高値を示した。CT像では腎下極より横隔膜面に至る腫瘤陰影が正中部にみられた。末梢血液、骨髓像、骨シンチでは異常所見はみられなかった。

12月5日手術が行なわれた。腫瘤は大動脈腹腔動脈幹周辺にあり、臍の背側に位置する直径約4 cmの弾性硬の腫瘍であった。しかし、腹部大動脈、上腸間膜動脈を完全に巻き込み、根治手術は不能であった。周囲のリンパ節転移もみられた。したがって手術はリンパ節の生検のみで終了した。組織学的分類はrosette - fibrillary type で、病期分類はStage III (O_R, C_x, N₃, H₀) であった。

治療は Endoxan, THP - adriamycin, CDDP を投与している。放射線療法を併用し、腫瘍の縮小を待って、二期手術を行なう予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



神奈川県全域(横浜市,川崎市,横須賀市,およびその他の県域)において,神経芽細胞腫のマス・スクリーニングが実施されている。表1に昭和57年から60年11月末までに実施した検査数,精密検査数等を示した。本年は横浜市において患児2例が発見されたので,その2例につき報告する。